バイコン特圧管

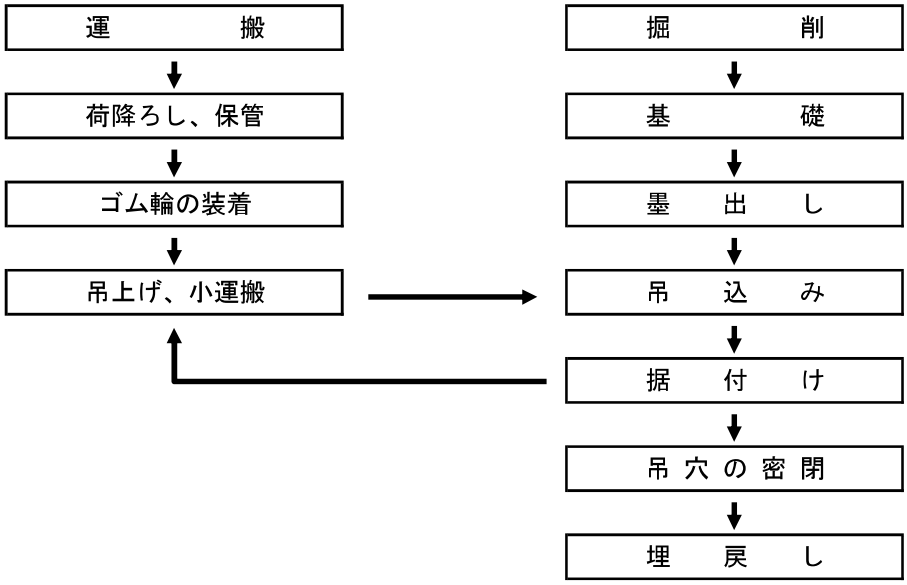
施工要領



株式会社総合開発

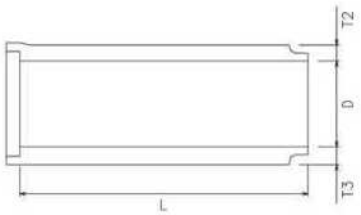
バイコン特圧管　施工要領

1．工　程



2，製 品 規 格







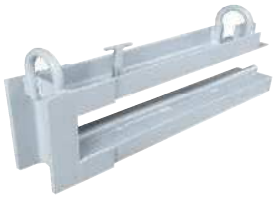
呼び名	参考質量	寸　法（mm）					
	(kg)	D	B	T1	T2	T3	L
150	66	150	120	33	48	60	1000
200	113	200	160	42	63	75	1000
250	288	250	200	45	70	84	2000
300	369	300	240	50	69	86	2000
350	455	350	280	54	72	91	2000
400	557	400	320	58	74	98	2000
450	687	450	360	62	96	105	2000
500	812	500	400	65	101	114	2000
600	1044	600	450	71	110	125	2000
700	1307	700	500	77	119	136	2000
800	1606	800	550	83	129	149	2000
900	1944	900	600	89	138	163	2000
1000	2303	1000	650	95	147	176	2000
1100	3327	1100	700	101	157	187	2500
1200	3862	1200	760	107	166	200	2500
1350	4707	1350	850	116	180	217	2500
1500	7183	1500	1240	170	230	240	2500
1650	7940	1650	1050	175	255	300	2500
1800	8450	1800	1050	175	255	300	2500

3. 準 備

（1） 吊金具

規格区分	規　格　・　数　量
管径φ150～200mm	150～200用吊具（1個）
管径φ250～500mm	250～500用吊ピン（1本）・ 250～500用座金（1個） 2t用シャックル（1個）
管径φ600～700mm	600～1200用吊ピン（1本）・ ナット（1個）・ 座金（1個） 2t用シャックル（1個）
管径φ800～1000mm	600～1200用吊ピン（2本）・ ナット（2個）・ 座金（2個） 2t用シャックル（2個）・ 1t用シャックル（1個）
管径φ1100～1200mm	600～1200用吊ピン（3本）・ ナット（3個）・ 座金（3個） 2t用シャックル（3個）・ 1t用シャックル（1個）
管径φ1350mm	1350用吊ピン（6本）・ ナット（6個）・ 座金（6個） 2．5t用シャックル（4個）・ 1t用シャックル（4個）
管径φ1500～1800mm	1500～1800用吊ピン（6本）・ ナット（6個）・ 座金（6個） 2．5t用シャックル（4個）・ 1t用シャックル（4個）

150～200用吊具



250～500用吊ピン



250～500用座金



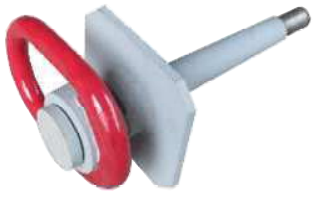
600～1200用吊ピン



1350用吊ピン



1500～1800用吊ピン



座金



ナット



シャックル



（2） 台付けワイヤーロープ

規　格	吊上げ用
管径φ150～350mm	1本 （ 9mm以上）
管径φ400～600mm	1本 （12mm以上）
管径φ700～1000mm	1本 （18mm以上）
管径φ1100～1200mm	2本 （16mm以上）
管径φ1350～1800mm	4本 （20mm以上）

（3） レバーブロック

規　格	引込み用
管径φ150～500mm	1個 （1．0t以上）
管径φ600～700mm	2個 （2．0t以上）
管径φ800～1000mm	1個 （3．2t以上）
管径φ1100～1200mm	1個 （4．0t以上）
管径φ1350～1800mm	2個 （6．0t以上）

4. 施 工 手 順

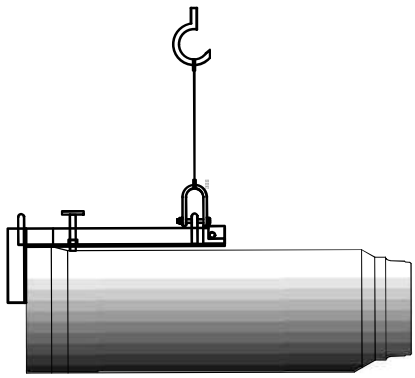
（1） 運搬および保管

① 管の運搬は、ひび割れや欠けなどの有害がきずを生じないように注意して行って下さい。
② 現場で保管する場合は、平坦な場所に置き、破損することのないように注意して下さい。
③ ゴム輪は、屋内の冷暗所に保管し、施工直前に装着して下さい。

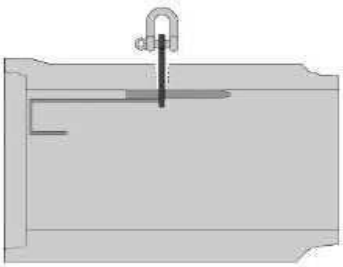
（2） 吊金具のセット

① 吊穴内にごみや異物があれば、取り除いて下さい。
② 吊金具やワイヤーなどに有害なきずや亀裂がないか確認して使用して下さい。
③ 管径φ150～200mmは、専用吊具を管に差し込んで下さい。
④ 管径φ250～500mmは、吊ピンを吊穴に入れ、内側より座金を入れて下さい。
⑤ 管径φ600～1800mmは、吊ピンを吊穴に入れ、内側より座金を入れてからナットを十分に締め付けて下さい。

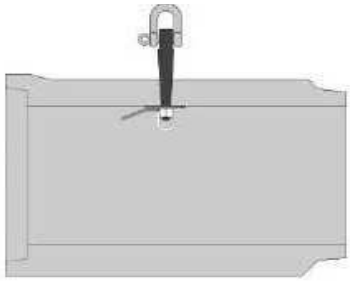
管径φ150～200mm



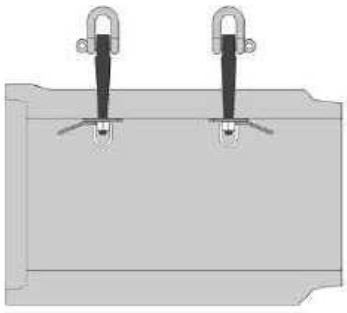
管径φ250～500mm



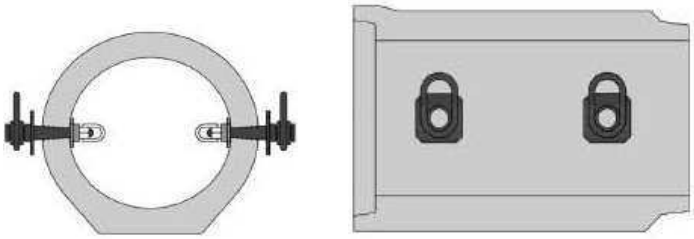
管径φ600～1000mm



管径φ1100～1200mm

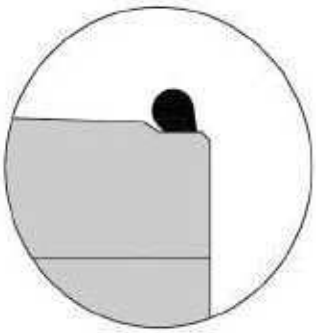


管径φ1350～1800mm



（3） ゴム輪の装着

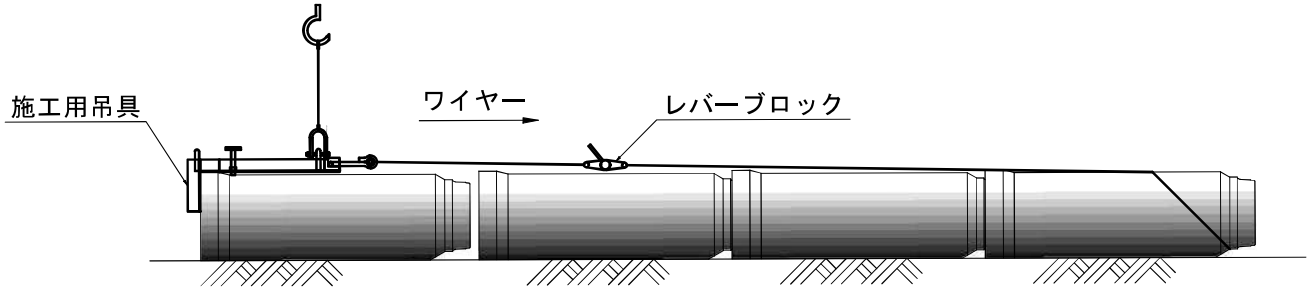
① 管の受口の内面および差口の外面に砂などが付着していると、漏水の原因となるので、これを取り除いて下さい。
② ゴム輪は、雨滴断面の先端を外側に向けて、各部の緊張度がほぼ等しくなるように調整しながら、右図に示す位置に取り付けて下さい。



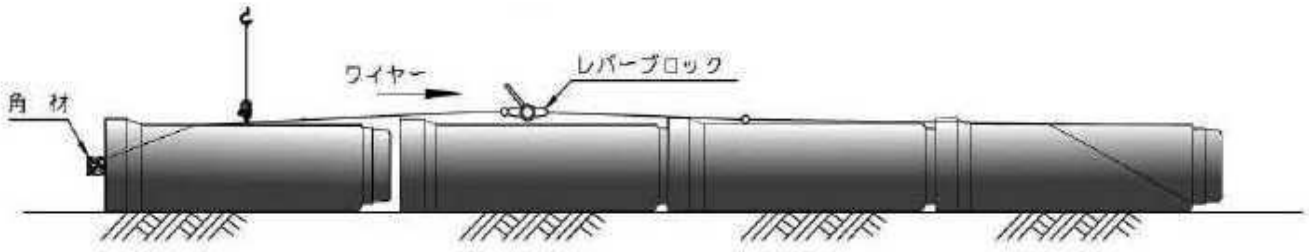
※ ゴム輪は、回転挿入方式なので、滑剤を使用しないで下さい。

（4） 管の布設

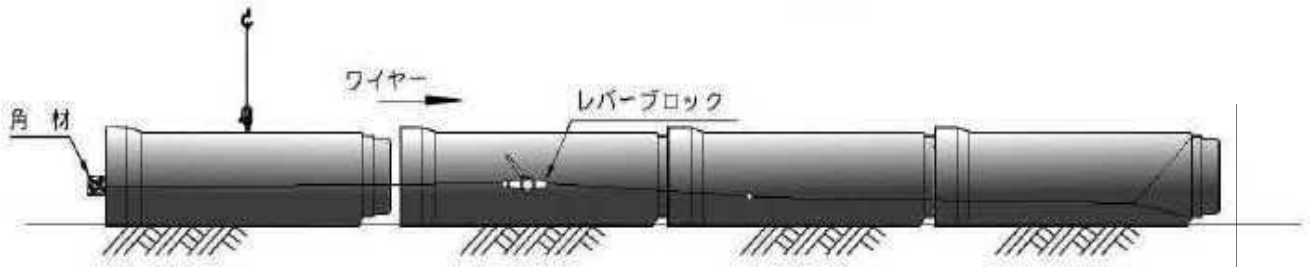
① 基礎面を凹凸のないように仕上げ、布設後の管の安定性を増すようにして下さい。
② 管の布設は、下流から受口を上流に向けて行い、布設が完了した管の受口に差口を挿入して下さい。
③ 接合の要領は、管を吊ったままの状態で、差口の上端を受口の内面の上端につけて、慎重に吊り降しを行いながら軸心を正確に合わせて差口を受口に挿入して下さい。
④ 管径φ150～200mmの間の場合は、下図に示すようにレバーブロックなどの引き込み器具を用い、ワイヤーロープを施工用吊具に掛けて、管の外側から操作して引き込んで下さい。
この場合、ワイヤーロープの控えは数本離れた既設管にとらないと、すでに接合が完了した部分が緩む恐れがあるので注意して下さい。



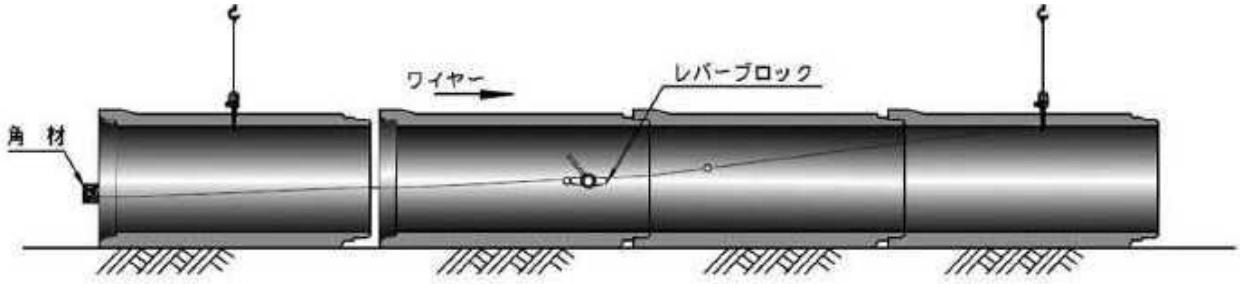
⑤ 管径φ250～500mmの管の場合は、下図に示すように、レバーブロックなどの引き込み器具を用い、ワイヤーロープを掛けて、管の外側から操作して引き込んで下さい。
この場合、ワイヤーロープの控えは数本離れた既設管にとらないと、すでに接合が完了した部分が緩む恐れがあるので注意して下さい。



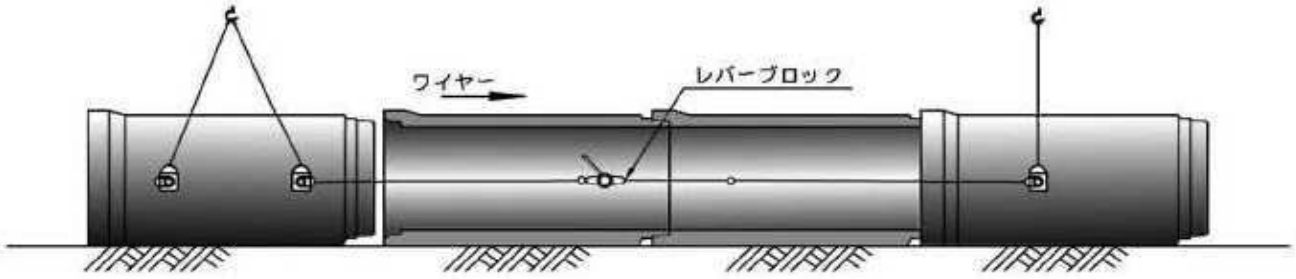
⑥ 管径φ600～700mmの管の場合は、下図に示すように、レバーブロックなどの引き込み器具を用い、ワイヤーロープを掛けて、管の外側から操作して引き込んで下さい。
この場合、ワイヤーロープの控えは数本離れた既設管にとらないと、すでに接合が完了した部分が緩む恐れがあるので注意して下さい。



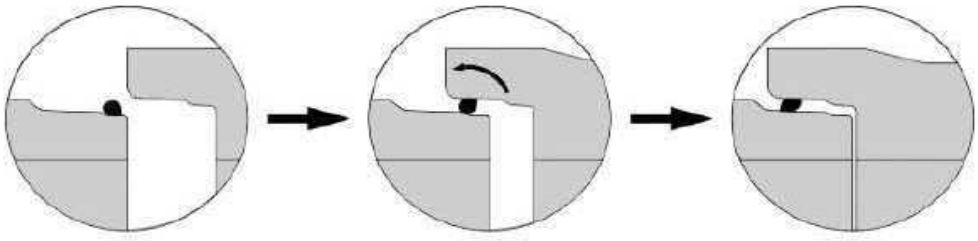
⑦ 管径φ800～1200mmの管の場合は、下図に示すように、レバーブロックなどの引き込み器具を用い、ワイヤーロープを引込用座金に掛けて、管の内側から操作して引き込んで下さい。
この場合、引込用座金は数本離れた既設管にとらないと、すでに接合が完了した部分が緩む恐れがあるので注意して下さい。



⑧ 管径φ1350～1800mmの管の場合は、下図に示すように、レバーブロックなどの引き込み器具を用い 、ワイヤーロープを引込用座金に掛けて、管の内側から操作して引き込んで下さい。
この場合、引込用座金は数本離れた既設管にとらないと、すでに接合が完了した部分が緩む恐れがあるので注意して下さい。



⑨ 受口と差口の上下左右の間隔を均等に保ち、差口を受口に差し込み、十分に引き込んで下さい。この時、ゴム輪は下図に示すように回転し、所定の位置に移動します。



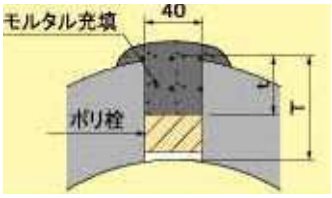
⑩ 差口側の黒いマーキングに受口の端面がかかるまで差し込んで下さい。

⑪ 接合が終わった時は、管が正しく挿入されているかを確認して下さい。異常がなければ再び同じ手順によって管を布設して下さい。

⑫ 完全に接合してから、管の固定状態を確認して、吊り込み装置や引き込み装置などを外して下さい。

⑬ 接合作業が終了し、管の吊穴を埋める場合、止水効果が得られるポリ栓またはゴム栓でまず穴を埋め、湧水などが侵入しないよう、外面をモルタルなどで仕上げて下さい。





⑭ 接合作業が終了したら、管路内を点検し、使用工具などを片付けて、土砂やコンクリートかすなどがないように清掃して下さい。